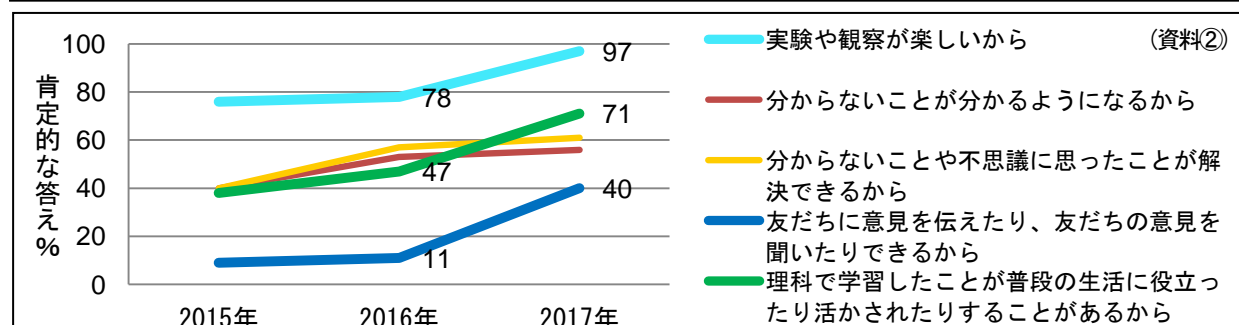
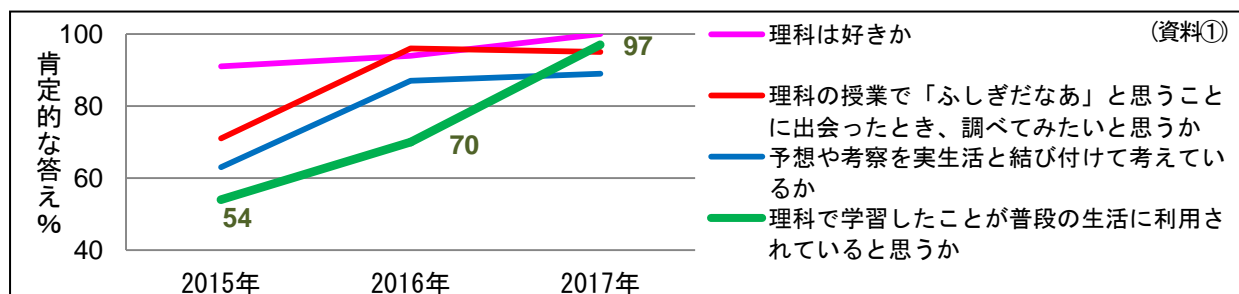


第3章 実践の成果と課題

1 児童意識調査

資料①は、3～6年生の全児童に対して行った理科の授業に関する意識調査(2015年9月、2016年8月、2017年7月実施)である。資料②は、3～6年生の全児童に対して行った意識調査(2015年9月、2016年8月、2017年7月実施)で、「理科が好きな理由」を尋ねた結果である(複数回答可)。



2 児童意識調査や授業実践と3つの視点についての考察 (○成果、●課題)

視点①「実生活との関連を図った問題設定の工夫」について

- **視点①**に関わる質問事項「理科は好き」「調べてみたい」は、児童の肯定的な回答が高水準を維持していることが分かる(資料①)。体験活動を行ったり、学習後の新たな気付きや疑問を出し合ったりしながら(P11、13、15参照)問題設定を行うことで、解決したいという意欲が高まった成果だといえる。
- 今後は、これまでの「おや?なぜ?」「もっと～してみたい」という児童の意識を一步進め、児童が問題解決の必要性を高めるといふ点で、今後研究を深めなければならない。

視点②「科学的に思考・表現できる場の工夫」について

- **視点②**に関わる質問事項「実験や観察が楽しいから」(78%→97%)「意見を伝えたり聞いたりできるから」(11%→40%)で肯定的な回答をした児童が大きく変化した(資料②)。授業で、「稲田っ子の科学的な調べ方」を意識させ、児童に実験方法を考えさせたり、考えを交流させて実験させたりする機会を設けた(P2、8、9、14、15参照)。児童は、方法を考える中で、これまでの知識を活かし、互いに意見を出し合いながら、より妥当な方法を見いだすことができ、児童が考えた方法で実験を進めることができた。その結果、「自分で考えた実験をするのは楽しい」「友だちと話し合いながら解決していくのが好き」と感じる児童が増加し、このような成果につながったのだと考えられる。
- 今後も、主体的・対話的で深い学びの場を意図的に設定していく必要がある。

視点③「実生活と関連付けて、理科のよさや楽しさを実感させる工夫」について

- **視点③**に関わる質問事項では、「理科で学習したことが普段の生活に利用されていると思うか」(資料①)があるが、肯定的な回答をした児童が、昨年の70%から97%に上昇した。また、資料②の「理科が好きな理由」として「理科で学習したことが普段の生活に役立ったり活かされたりすることがあるから」と肯定的な回答をした児童が、昨年の47%から71%に上昇した。学習した内容と実生活で利用している道具や起こる現象について関連を考えさせたり、学習したことを身近な事物・現象に適応したり、学習したことを活かして、おもちゃづくりをしたりすること(P2、12、15)で「理科を学んで良かった」「理科の学習が生活に役立っている」と実感している児童が増加してきている。授業でも「今日の学習は・・・(日常の現象)に似ていると思います。」など実生活と関連付けた発言が多くなってきている。
- 理科学習環境も整い、理科が好きな児童が育ってきているからこそ、今後はこれまでの学びを活かし、地域へ発信していくことで、理科のよさや楽しさを実感できる児童の育成を目指していきたい。